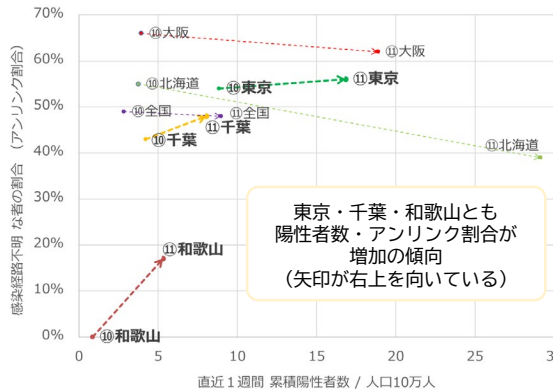


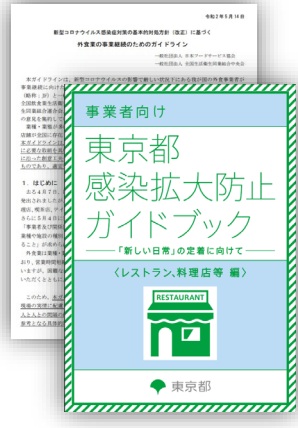
感染予防について改めて 学生の皆さんへの注意喚起



日本では高止まりしていた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の新規感染者数が10月後半から増加し、11月に入ってからの増加の傾向が顕著となっております。本学のキャンパスのある東京都をはじめ千葉県、和歌山県も同様の傾向にあります（下図）。これを受けて、11月17日に学長から学生の皆さんに「私たちの第一波を迎えた時のように、今一度、一人一人の自覚に基づいた、緊張感を持った対応をとることが基本です。」とのメッセージ及び具体的な留意点をお伝えしました。とくに「基本的な感染防止策の実施」として、マスクの着用や手指衛生の遵守、人と人の距離を確保、「3密」を避け大声を出さないことはもちろん、リスクが高い場面を避けることを呼びかけました。とりわけ**飲食を伴う懇親会は自粛し、飲食も5人未満**で行うことを求めています（家庭内の食事はこの限りではありません）。



第11回、第16回新型コロナウイルス感染症対策分科会(10/15, 11/20)の資料をもとに本学対策本部で作成、⑩は10月分(第11回資料)、⑪は11月分(第16回資料)を示す。



また、アルバイト先の感染対策がガイドラインに沿ったものであるか、再確認することもお願いしています。ガイドラインは、東京都などの自治体や、業界団体(例：飲食店の場合は日本フードサービス協会など)が刊行していますので、熟読をお勧めします(左上)。なお、対面授業レベルについては、全キャンパスで「レベル1」を継続しています。若い人は感染しても症状が無い(軽い)場合が多いので、常に感染者かも知れないとの意識を持ち続けることが重要です。医療系大学の大学生として、社会への啓発にも心がけてもらいたいと思います。

「災害」に関連したテーマの卒業 研究発表会をオンライン開催

東が丘・立川看護学部 災害看護学コース 看護基礎学領域

災害看護学コースでは、3年後期に全学生が各領域に分かれ、それぞれ1名程度のグループで約1年間かけて「災害」に関連したテーマで卒業研究をしています。これまでは、体育館に4年生全員と教員だけでなく、3年生と来賓の実習先病院看護部長を含めた総勢250名程度が集まり、学会形式の研究発表会を行なってきました。研究発表会を学会形式で行っているのは、卒業研究の目標として学会発表を想定しているからです。実際に、ほとんどの卒業研究が、各種学会で報告されています。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策で、Zoomを活用したオンライン開催となりました。例年のように各領域の特徴を踏まえ、今年度の研究テーマも、例年のように各領域の具体的な内容としては、コロナ禍でデータ収集が難しいことから、アンケート用紙の配布方法を工夫したり、インターネット

発表会当日はスライドの進行も音声も時差が生じて発表が難しくなるのではないかと心配しましたが、どのグループの発表も入念に発表練習がなされ、いずれのグループも研究の初学者である3年生から「発表内容がとてわかりやすかった」とコメントが寄せられていました。4年生の間でも質疑応答が活発に行われ、時間の関係で質問できなかった学生にはWebsで質問を受け付けるなど、オンラインの良さを生かしながら行いました。

左：学生が発表した研究テーマの一覧
下：学生が発表したスライドの一例

- 東京都内に在住する高齢者の自然災害に対する情動的備えとソーシャル・キャピタルとの関連～ソーシャル・キャピタルの「ネットワーク」に焦点を当てて～
- 災害時における精神障害者・専門職種が求める支援の在り方に関する文献研究
- 大規模災害を想定した糖尿病療養者が食事療法を継続するための防災意識と備えの実態調査
- 看護大学生を対象とした災害ボランティア活動への参加意欲と災害看護に関する教育との関連の検討
- 災害避難における液体ミルクの使用に対する乳児を育てる母親の認識
- 感染拡大予防に対する知識・意識・行動と社会的自己制御尺度の関連
- COVID-19による緊急事態宣言発令時～避難所運営時の段ボールベッドの導入状況に関連する要因の検討～平成30年から令和元年の大規模災害での指定避難所運営経験者を対象とした調査～
- 養育者が子どもに行った新型コロナウイルス感染症予防対策と生活の変化
- CBRNE災害における看護師の認識と備えに関する研究～クリティカルケア領域の看護師を対象とした実態調査～

